

普及活動情勢報告（令和2年11月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

ユズの出荷に向けて ～津野山ユズ部会 J A馬路村視察～



馬路村ユズ圃場の視察

10月22日、J A高知県津野山ユズ部会役員3名、津野山営農経済センター職員2名とともに、J A馬路村での意見交換会、現地ほ場視察を行いました。

津野山産のユズは搾汁用ユズとして全量J A馬路村に出荷されています。意見交換会では、今年度の津野山からの出荷計画や、今後の産地の動向について情報交換を行いました。

役員からも積極的な質問や意見交換がなされ、内容に満足した様子であり、帰りの車内ではJ A職員に対して、今後に向けて新しい苗木の注文が依頼されていました。

当課は今後も津野山ユズ産地の維持に向け、J Aと協力して活動していきます。

新規就農者の営農を応援するきね！ ～新規就農者激励会～



講演会の様子

10月30日、J A土佐くろしお4 H Cの主催により、新規就農者激励会が開催され、新規就農者、4 H C、関係機関ら20名の参加がありました。

当課からは、新規就農者を対象に「農業の基礎知識」について講演を行いました。農業者としての心得、土壌と肥料、現場で多い計算例（肥料・農薬・株間）などについて説明し、基本的な知識等について理解してもらうことができました。

当課では、今後も関係機関と連携して新規就農者の営農等へのサポートに取り組んでいきます。

促成キュウリのI P M技術向上を目指して！ ～実証ほへの天敵放飼～



天敵放飼作業の様子

管内の促成キュウリ栽培では、害虫の薬剤抵抗性の発達により防除が困難な状況となっていることから、I P M技術を活用した害虫防除の取り組みを進めています。

今年度は、実証ほを3カ所設置し、11月6日、17日に、天敵放飼を行いました。今回放飼した圃場は2年目の取り組みとなっていることから、昨年の状況を踏まえ、生産者と今後の管理の注意点などについて話をしました。

今後は、定期的に天敵・害虫の発生状況を確認するとともに、経過について部会員に情報提供し、天敵利用を推進していきます。

農業担い手育成センターの研修生がシシトウ農家を訪問 ～実際の栽培を学ぶ～



シシトウ農家を訪問

11月16日に農業担い手育成センターの研修生5名が須崎市のシシトウ農家2戸を訪問し、栽培管理や作業などについて学びました。

当課は、農業担い手育成センターからの依頼を受け、訪問先との調整や当日の圃場の耕種概要など栽培について説明を行いました。

参加者からは、訪問した農家に対し、「1日の収穫量は?」、「雇用は何人いますか?」、「就農するまでに準備することは?」などの質問がありました。農家からは栽培管理や労働面に対するアドバイスが行われ、研修生の就農に対する意識が高まったようでした。

今後とも当課は農業担い手育成センターとの連携を深め、就農希望者への支援を行っていきます。

集落営農法人の経営安定化に向けて ～「農事組合法人大野見野の風」役員会～



制度説明の様子

11月17日、中土佐町大野見地区にある集落営農組織、「農事組合法人大野見野の風」の事務所で役員会が開催されました。

当法人では、農業機械が更新の時期を迎えつつあることから、農機の更新計画と「農業経営基盤強化準備金制度」の活用について検討しました。当課から制度の説明を行い、役員からは「5年後の計画に位置付けたものが、前倒しの場合はどうなるか」など多くの質問がありました。

検討の結果、制度を活用する方向となったことから、当課は、年内から2月にかけて、準備金制度活用に向けた支援を行うとともに、当法人で2月に予定されているクリの植え付けに向けても支援をしていきます。